

岡本 洋子さん (広島県東広島市出身)
2016 年度 3 次隊 シニア海外ボランティア
派遣国：ウルグアイ 職種：保健師
2018 年 3 月 11 日 (日) 中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

農村巡り健康サポート

私は今、地球の日本の真裏(時差 12 時間)にあるウルグアイのリベラ県社会振興局で、保健師として活動している。リベラ県は首都モンテビデオから北東にバスで約 7 時間離れた、ブラジルとの国境の町だ。ここでの生活も 1 年となった。



巡回診療用のバスに並ぶ住民たち。週 3 回、県内各地の学校を拠点にまわるが、1 時間以上かけて来る人たちもいる

文化や食生活などブラジルの影響を大きく受け、子どもたちは両国の言葉を聞いて育つ。人口は約 10 万人。その 9

割が都市部に集中している。農村部には産業がなく貧富の差を感じる。私の主な活動は、その農村部の医療を受ける機会が少ない地域を、医師・歯科医師・看護師などの専門スタッフとチームを組んで巡回し、治療と合わせ予防活動を行うことだ。

巡回診療は週 3 回。バスで片道 2、3 時間かけて県内各地の学校を拠点に 32 市町村をまわる。健康づくりは「自分を知ること」との思いから、現在は健康手帳を作り、病気の知識と自分の体の変化を知ってもらうことを試みている。

言葉の壁や文化の違いで、もどかしさを感じることも多い。医師たちは自分の相談や個人的電話を優先し、診療中であってもおしゃべりが始まる。日本ではありえない光景だが文句も言わず談笑しながら待っている住民。リベラの日々はそんな住民とともにゆっくり流れる。

高く青い空。都会でも田舎でもない穏やかなこの町。そして同僚や住民のフレンドリーな声掛けを肌で感じながら、私もこの町で歩調をあわせてゆっくり生活しようと思っている。